

No.
10

ELPA Vision



E-Vision リスニングテストを利用した研究例

研究概要：リスニング力と英語学習動機の向上を目指して

パデレック ジャック（立教大学外国語教育研究センター教育講師）

特定非営利活動法人(NPO)
英語運用能力評価協会
ELPA Association for
English Language
Proficiency Assessment

〒162-0806 東京都新宿区榎町 39-3-501

Tel: 03-3528-9891 Fax: 03-3528-9892

e-mail: elpa@english-assessment.org URL: <https://english-assessment.org/>

英語 4 技能プレイスメントテスト E-Vision モニターテスト受験校募集

英語 4 技能プレイスメントテスト E-Vision とは

高大接続改革の目標、「急激な社会変化の中でも、未来の創り手となるために必要な資質・能力を備え、自立して社会に貢献する人材を育成すること」に即して、2022 年から実施されている高等学校の学習指導要領「英語コミュニケーション」「論理・表現」では、英語 4 技能評価が求められています。

ELPA で開発中の「英語 4 技能プレイスメントテスト E-Vision」では、「リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング」の 4 技能の力をウェブサイト上のテストでコンピュータ、タブレット、スマートフォンにより測ることができ、「主体的・能動的な学習」で必要となる、総合的な英語力がどの程度身についているかが把握できます。

特に大学入学前の英語のクラス分けテストでご利用いただく際に集団による一斉受験の必要がなく、コンディションが整っていれば自宅などで受験していただけます。また入学前でまだ学生の手元にコンピュータが用意できていないという場合にも手持ちのタブレット、スマートフォンで受験可能です。

高等学校、高等専門学校、短期大学・大学まで広くご受験いただき、グローバル化が進む社会に対応できる英語力を身につけるのに役立てていただければ幸いです。

■英語 4 技能プレイスメントテスト E-Vision 問題概要■

◇仕様：コンピュータ、タブレット、スマートフォンを使用したウェブサイト上の個別受験型テスト	＜内容＞
◇出題レベル：高校英語総合レベル	1：リスニング（多肢選択）
◇試験時間：リスニング 20 問 25 分	2：リーディング（多肢選択）
リーディング 20 問 25 分	3：スピーキングテスト（文再現・整序／自由産出問題出題可能性あり）
スピーキング 20 問 10 分	4：ライティングテスト（文再現・整序／自由産出問題出題可能性あり）
ライティング 20 問 10 分	
合計 約 70 分（※練習問題、自由産出問題除く）	

モニターテスト受験校募集中

現在、「英語 4 技能プレイスメントテスト E-Vision」のモニターテストを実施していただける学校を募集中です。（一定数に達したら締め切りといたします。ご了承ください。）

■実施概要■

・受験料：無料
・時期：2025 年中（※ご相談ください。）
・対象：高等学校／高等専門学校／短期大学・大学 等
・人数：40 名以上
・テスト終了後、引き続きアンケートに答えていただきます。所要時間は約 10 分です。
・受験者名簿を事前にデータでいただきます。
・採点データは、モニターテスト実施後 2 週間程度でお届けします。なお、詳細なスコアレポート等は提供いたしません。

※個人情報、テストの解答およびアンケートのデータに関しては、調査・研究及びデータ分析の目的以外には一切使用いたしません。

研究概要：リスニング力と英語学習動機の向上を目指して

立教大学外国語教育研究センター教育講師 パデレック ジャック



本研究は、立教大学の一部の 1 年生必修英語クラス（研究者が担当するクラス）を対象に行われている研究の一環です。研究の目的は、「ロールモデルに関するナローリスニング活動」が英語のリスニング力と学習動機に与える効果を測定することです。

このナローリスニング活動とは、学習者自身が尊敬し、目標とするような“第一言語（L1）または第二言語（L2）として英語を流暢に使う話者（ロールモデル）”が話す音声を繰り返し聞く活動です。内容は、人生・仕事・学習・言語使用に関する話題など多岐にわたります。自分にとって興味のあるトピックを選ぶことで、より深い理解や語彙の定着が期待されます。

ロールモデルとは、学習者が「この人のようになりたい」と感じる人物であり、その人の性格や行動、人生経験、学習姿勢、言語使用の仕方などに憧れを抱く対象です。

この学習法の利点には、以下のような点が含まれます：

- 学習時の不安の軽減
- 学習の自律性の向上
- 聴解力の向上
- 語彙知識の深化
- 学習へのモチベーション向上

本研究では、ELPA のリスニングテストを用いて、リスニング力の変化を測定しています。ご協力いただいている皆さまに心より感謝申し上げます。

Research Introduction: Exploring the Impact of Role Model-Based Narrow Listening

This study is part of my doctoral research and is being conducted with first-year students enrolled in compulsory English classes at Rikkyo University. The primary aim is to measure changes in listening comprehension and motivation to study English, using the ELPA listening test as a key assessment tool.

The research investigates the effects of a newly developed extensive listening method called narrow listening to role models. In this approach, learners repeatedly listen to short recordings of one or more proficient speakers of English (as an L1 or L2), discussing a similar topic. The content is tailored to match learners’ personal interests, which increases engagement and relevance.

A role model in this context refers to someone the learner looks up to and wishes to emulate — whether due to their achievements, communication skills, personal qualities, or language-learning journey.

This method is designed to foster a more meaningful listening experience and has several potential benefits:

- Reduced anxiety during study
- Increased learner autonomy
- Improved listening comprehension
- Greater depth of vocabulary knowledge
- Enhanced motivation

By incorporating the ELPA listening test, the study aims to provide reliable insights into how this approach can support both language development and learner confidence.

(PUDELEK, Jack)

ELPA セミナー報告

2023 年度、2024 年度に開催したセミナーは以下のとおりです。主に Zoom Meetings で行いました。

2023

2023 年 4 月 13 日 「探究学習」をコアとした「リーディングリテラシー」力の育成ー高校から大学へ、「探究」をコアとした高大接続教育の取り組みー

2022 年度から高校では新科目「総合的な探究の時間」が導入されました。「探究学習」で育まれる、主体的に取り組む、課題を設定・発見する力は、大学での授業で最も必要となります。本セミナーでは、「日本語リーディングリテラシーテスト」と「新・読解力トレーニング 日本語リーディングリテラシー 錬成 BOOK」のセットをご紹介します。

【講師】永田麗（リーディングリテラシー研究会代表・河合塾ほか国語科講師、ELPA アドバイザー）／堤晋介（リーディングリテラシー研究会フェロー、算数数学・SPI 非言語分野オンライン学習講師、ELPA アドバイザー）／難波俊樹（東京富士大学准教授、ELPA アドバイザー）／白戸治久（日本アクティブ・ラーニング学会 未来探究部会 /SIG 代表）

2023 年 6 月 17 日 AI との協働・共生 ICT を効果的に使いこなす、新しい授業スタイルと学び方～主体性を育み、深い学びをもたらすための実践例～

すでに、高校生でも DeepL は当然のように使い、Chat GPT の利用も出てきています。これからの生徒は AI Native になっていきます。我々は、「自分が学習者として経験していないことに挑戦しなければなりません。」日々の苦戦をさらけ出し、皆さんと考えました。

【講師】唐澤博（芝国際中学校・高等学校英語科先端学習オーガナイザー、ELPA アドバイザー）

2023 年 6 月 24 日 評価テストをどう使う？～データ戦略を学校運営に活かす～

大学では特に3つのポリシーに照らした教育の推進に、評価制度自体の検証も求められています。私たち ELPA は、これまでも言語運用能力を評価することで、毎年約 120 学部・3 万人以上の受験を 20 年間サポートしてきた実績で、数々の学校運営に寄与してきました。「我が校に必要な観点はどのようなものなのだろうか？」のヒントがここにあります。

【スピーカー】岡田健志（ELPA 副事務局長）／【インタビュー】石川浩道（ELPA デジタル事業部部長）

2023 年 6 月 29 日 オンラインテスト運営は大変？～受験者サポート業務のノウハウ大公開～

教育の DX 化が叫ばれる中、さまざまなデータ収集の可能性があるオンラインテストに注目が集まっています。本セミナーでは、ペーパーテスト（PBT）との比較も踏まえ、実際のオンラインテスト（CBT）実施時の学生サポート業務の実態報告を行います。ありうるトラブルやアクシデントの存在を知り、その対策を事前に講じることで、より効率的な運用ができるコツをお伝えしました。

【スピーカー】岡田健志（ELPA 副事務局長）／【インタビュー】岡田千晶（ELPA サポートセンター）

2023 年 8 月 5 日 生徒が創造性を発揮できる多言語学習～聖徳学園の STEAM 教育の実践から～

聖徳学園では高校 1 年生の授業で、外国語を選んで自分で学び、レッスンムービーを作ります。動画撮影編集アプリ Clips を使うことで、話した言葉が音声認識で自動的に字幕として表示されます。正しい発音であれば正しい字幕が出ますし、正しくなければ練習し直さなければなりません。品田健先生に、実践をお話いただきました。

【講師】品田健^{たけし}（聖徳学園中学・高等学校情報科教諭、Apple Distinguished Educator、Apple Professional Learning スペシャリスト、Adobe Education Leader）



聖徳学園高等学校の品田先生による情報の授業

2023 年 8 月 9 日 「テスト」の未来予想図ーコンテンツと XR が紡ぐポストコロナ時代の新たな学びの世界

次世代の外国語教育と CBT を研究・開発している株式会社空間概念研究所および中国語教育総合研究所と共催とし、オンラインでハイスティクステストを実施するために必要な要件、技術をご紹介します。技術の発展に伴って実現した英語速読教材 Soc Dok のご紹介もしました。参加者の皆さんにオンラインテストでの不正防止用機器を実際にお試しいただきました。

【講師】楊^{ヨウ}達^{タツシ} 早稲田大学文学学術院文学部教授・中国語教育総合研究所所長

2023 年 8 月 19 日 情報活用能力とリーディングリテラシーの関係性～社会で求められる力を再考する～

AI が文章を自然に生成する時代。これまでもウェブ上のコンテンツの「玉石混交」について警鐘を鳴らす論者も多くいました。情報活用能力が求められる時代に、それらの能力がどのような構成要素で成り立っているか、そしてリーディングリテラシーが必須のものであることを皆さんと一緒に考えました。

【講師】岡田健志（ELPA 副事務局長）

2023 年 8 月 24 日 学習分析から見た教育評価とは？～測れない力への挑戦～

「個別最適化の学び」「学習データの活用」ということが教育界では話題になっています。「どのようなデータが取得可能なのか？」「教育評価とはどのようになされるのか？」取得可能なデータがそのまま教育や学習支援として有益なのかどうかといった課題もあります。参加者の皆さまとも一緒に考えてみました。

【講師】松居辰則（早稲田大学教授・学習分析学会会長）

2024

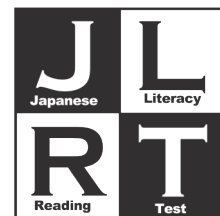
2024 年 6 月 22 日 教育現場ではどのような合理的配慮がなされているのか？

2024 年 4 月より合理的配慮の提供が義務化されました。私たち ELPA が運営するテスト・教材もその対応をしていきます。合理的配慮は当事者同士の建設的な不断の対話によって成立します。稲田健実先生を講師にお招きし、私たち ELPA 職員とともに、このテーマに関心のある教育関係者の方々に向けて広く合理的配慮の現状とその背景にあるマインドについてお話いただきました。

【講師】稲田健実^{たけみ}（福島県立相馬支援学校教諭）

日本語話者のみなさん、「英語」の前に「日本語」で書かれた文章が正しく読み解けていますか？

読解力は情報化社会に適応するために必要な総合スキルです。誤解や取り違えをすることなく相手の真意をとらえ、文脈の中での言葉の使われ方に注意して読み解くことが肝要です。言葉を前後の文脈から切り離しても正しい内容は理解できません。正確な内容理解に必要なのは、周囲の記述との関係性に注意をはらい、かつ異なる情報を組み合わせたうえで、「語意」や「文意」を把握することです。本書は20年間英語運用能力を評価してきたNPOが日本語文章を読み解くスキルを鍛えるために開発した、トレーニングテキストです。



新・読解カトレーニング 日本語リーディングリテラシー 錬成 BOOK

日本語リーディングリテラシー研究会編／114ページ／定価1320円（税込）／2022年10月10日発行

●こんな方におすすめ●

「国語」の現代文や「数学」などの文章題の得点が安定しないで困っている中学生、数学・理科、地理歴史・公民など教科内容を正しく理解して克服したい高校生、日本語で書かれたテキスト特に論文を正しく理解したい大学生、日々大量に送られてくる情報文や図表を正しく理解したい社会人

内容見本

2. 情報

1：読解における重要性

→「なんとなくわかったつもり」は実際には理解できていない。

1：日本語で書かれた一般的な文章の読み取りに際しては、情報が正しく把握できるかが重要です。論説文ではなく、実際の情報伝達に使われる文章は、しばしば書き手の表現力に問題がある場合も、また書き手の考えている主題と読み手が必要としている情報が違う場合もあります。その際、①安定して②適切に判断することが重要です。具体的には、要不要を判断する、言い換えると、その必要な情報を選択したり抽出したりできるかというところがポイントです。

2：さらに①書かれていることを書かれているとおりに読むか、もしくは②判断して理解

4. 論理

1：命題・ベン図

→解法の戦略＝文章を命題としてとらえる

1：文章を命題としてとらえる

文章を命題としてとらえると、論理的構造が把握しやすくなります。命題というのは「〇〇であるならば△△である」という形です。

〈例〉

大阪人は関西人だ ▶ 大阪人である→関西人である

4の倍数は2の倍数だ ▶ 4の倍数である→2の倍数である

犯人はこの中にいる ▶ 犯人である→この中にいる

5. 分脈

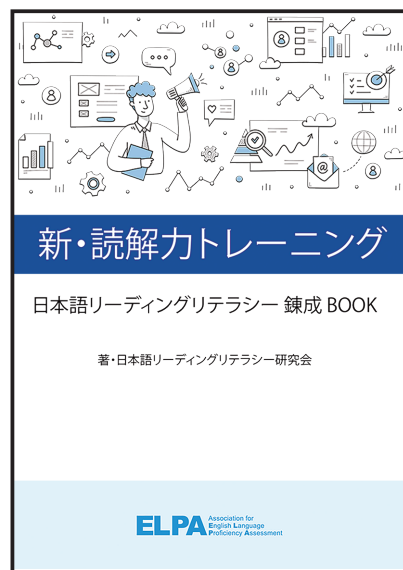
1：そもそも「文脈」とは？

→解法の戦略＝「速読・速解」がキーワード！

1：「文脈」（＝コンテキスト）とは

→語と語、あるいは文と文の間の「意味の続きぐあい」と、それによってある語や文に対して働く「意味を規定する力」をいう。比喩的に、「すじみち」や「背景」などを指して使われる。

（例文）アメが降ってきたよ。
「アメ＝雨」 （前文 A） 天気予報の通りだ！
「アメ＝飴」 （前文 B） さずがお菓子の国だ！



英語速読アプリ Soc Dok

Soc DokはWebサイト上で動作する、新しい英語速読練習アプリです。英検3級レベルの問題の英文をひととおり読んで理解度チェックの正誤問題に答えると、自動的にWPMスコアが計算されます。授業の帯活動、講習、自学自習にお役立てください。

1 アカウント 660円（税込） 三省堂版／東京書籍版／開隆堂版